

【報道関係各位】

 2022年7月21日  
 「熱中症ゼロへ」プロジェクト

## 夏の自由研究にも！熱中症に注意が必要な場所・行動を直接書き込んで学べる 「熱中症ハザードマップ」をプロジェクト公式サイトで公開

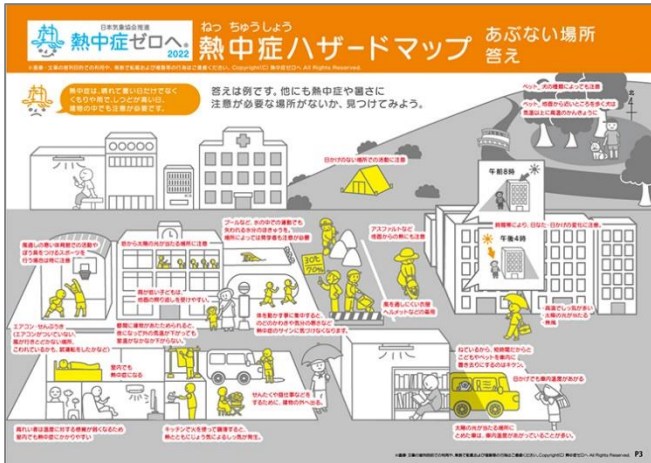
一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）が推進する「熱中症ゼロへ」プロジェクト（以下、本プロジェクト）は、子どもの熱中症への理解促進を目的として「熱中症ハザードマップ」を作成し、本プロジェクト公式サイトにて2022年7月21日（木）に公開します。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第6次評価報告書（AR6）によると、世界の平均気温は、少なくとも今世紀半ばまでは上昇を続け、向こう数十年の間に二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出が大幅に減少しない限り、21世紀中に、産業革命以前と比べ1.5℃および2℃上昇するとされています。今後、さらに暑さが厳しさを増すと予想される中、どのような条件下で熱中症に注意が必要となり、どのようなことが熱中症の予防・対策につながるのかということを考える力が大切になります。

そこで、熱中症に注意が必要な場所、条件などを子ども自身で考え、また予防・対策につながる行動を身につけてもらうツールとして、熱中症ハザードマップを作成しました。ご家庭などで印刷して活用いただけます。



熱中症は環境、からだ、行動などさまざまな条件のもとに引き起こされます。身近な環境の中で、熱中症になりそうな場所を認識すること、熱中症にならないためには「何が」「どのように」良いのか、考えることが大切です。熱中症ハザードマップは、例示されるマップの余白に、その状況で注意すべき各ポイントや予防策を考えて、直接書き込めるワークシートとしました。



解答例：熱中症に注意が必要な「場所」「行動」

【熱中症ハザードマップ】 <https://www.netsuzero.jp/learning/le19>

「熱中症ゼロへ」プロジェクトでは今後も、厳しさを増していく暑さに適応するため、子どもを含めさまざまな対象のかたに寄り添うコンテンツ作り、熱中症の予防・啓発活動を進めていきます。

## ■「熱中症ゼロへ」プロジェクトとは

熱中症にかかる方を減らし、亡くなってしまふ方をゼロにすることを目指して、一般財団法人 日本気象協会が推進するプロジェクトです。2013年夏のプロジェクト発足以来、熱中症の発生に大きな影響を与える気象情報の発信を核に、熱中症に関する正しい知識と対策をより多くの方に知ってもらふ活動を展開してきました。活動10年目となる2022年は、「気候変動の適応策としての熱中症対策」をテーマに活動を実施していきます。

## ■一般財団法人 日本気象協会について

1950年に誕生した日本気象協会は、天気予報に代表される気象予測事業に加え、再生可能エネルギー、環境アセスメント、大気解析事業、防災・減災・安全管理に関する事業など、気象に関するコンサルティング事業を通じ、公共に資する企業活動を展開しています。

・「熱中症ゼロへ」のロゴマークは日本気象協会の登録商標です。

ワークシートのほか、各解答例、さらに自分の住んでいる街を想定してマップを作ることができる自由記入シートもダウンロードが可能です。

本ワークシートを、どんな状況においても暑さから身を守る場所や、大人に助けを求められる場所について考える土台作りとしてもご活用ください。